令和４年度第３回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日　　時：令和４年 10 月 19 日（水）14：00～16：30
場　　所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて
出 席 者：11 名
仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、岩崎奈々子(県立八重山病院)、西村克敏(地域統括支援センター)、小波津真紀子(沖縄県保健医療部)、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠 席 者：3 名
樋口美智子（沖縄国際大学）、金城美奈子（県立宮古病院）、島袋百代（ﾊﾟﾝｷｬﾝｼﾞｬﾊﾟﾝ沖縄ｱﾌｨﾘｴｲﾄ）

陪 席 者：1 名　有賀拓郎（琉球大学病院）、

【報告事項】
１．令和３年度第４回情報提供・相談支援部会議事要旨(令和４年７月７日)
資料１に基づき、部会長より令和３年度第４回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

２．がん患者ゆんたく会（7～9 月）
資料 2-1～2-3 に基づき、令和４年７月～9 月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は今年度初めての会を７月に開催。5 人中４人が新規であった。8 月は開催なし、9 月は４人参加。患者会の再開を待ち望む声が多かった。感染対策をしながら１時間に縮小して開催。互いの問題・情報共有することができた。那覇市立病院は 5 月から再開。7 月は中止、9 月は初めてオンラインで開催。患者さん３名、スタッフ 11 名で参加、テーマは口腔ケアであった。初めてのオンラインであったが、通信が途切れることなくスムースにできた。次回は 11 月に薬剤師によるお薬の説明を予定。運営スタッフの感染対策を見直しながら、今回参加されなかった方もオンライン参加ができるよう案内していく。琉球大学病院は、感染対策を講じながら対面で開催。参加者がゼロの月もあった。比較的リピート率が高く、院外からの参加者が多い。

３．がん相談件数（7～9 月）
資料 3-1～3-6 に基づき、令和４年７月～9 月の各拠点病院のがん相談件数について

報告があった。北部地区医師会病院は、7 月 29 件、8 月 20 件、9 月 21 件。入院から在宅へ帰りたいとの相談が多い。在宅療養の希望が増えており、コロナ禍で面会制限があるためと考えられる。在宅看取りの希望もあるが、訪問診療対応できる事業所が少なく困っている現状もある。1～2 週間体調が持つ間は自宅で過ごしていただき、体調が悪くなってきたら入院対応を行っている。県立中部病院は、7 月 48 件、8 月 32 件、9 月 47 件。ゲノム医療外来、介護保険・傷病手当の案内、家族の不安に対する電話相談が多かった。対面・オンラインでのセカンドオピニオンの案内、がん治療終了後のホスピス外来・在宅調整のほか、独居で家族と疎遠な方の対応を地域包括支援センターと協働で支援している。院内の相談員直通の回線ができたので、患者さんの安心につながっている。那覇市立病院は、7 月 83 件、8 月 104 件。9 月はこれから集計。半数以上がリピーターで、新規の相談は 1～2 割。相談内容としては、在宅医療、ホスピス・緩和ケア、訪問介護・看護の相談が多い。また、外来フォローをしながら経過を見ている患者さんも増えてきている。県立宮古病院は委員欠席のため紙面報告となった。7 月は 71 件、8 月は 76 件、9 月は 61 件であった。県立八重山病院は、7 月 87 件、8 月 86 件、9 月 96 件。ゲノムの案内が 1 名、在宅・訪問診療は横ばい。コロナで受診控えがあるのか、腸閉塞などで緊急入院し、抗がん剤の認定看護師や緩和ケア看護師に繋ぐケースが増えている。他院通院中だが「がんになったら手に取るガイド」から相談支援センターの情報を得ての来所、他の離島在住で電話がない方について、中部病院の相談員と連携して入院につながったケースがあった。琉球大学病院は、7 月 99 件、8 月 130 件、9 月 94 件。8 月が突出している背景としては、初めての方と他施設通院中の方が増加していること、来所経緯については外来化学療法室の初回利用者が増えたことが影響している。在宅に繋いだ方のフォローアップも多かった。課題としては、集計の基準を確認しながら今後の活動の要望と併せて、相談者の反応も面談終了後に確認したいと考えている。友愛医療センターは、月約 20 件前後、がんの告知後のメンタル面のフォロー、訪問看護・診療への連携が多かった。南部医療センターは、入院・外来共に、緩和ケア・ホスピス、介護保険の紹介・案内が多かった。小児の方では琉大へ移植の紹介があった。放射線治療が終了し、八重山へ戻る際在宅・外来調整について八重山病院の相談員と連携した。緩和ケアチームが 10/13 にホスピス・緩和ケア週間のイベントを実施。オンライン・対面のハイブリッドで、緩和ケアとは、がんと精神症状、心不全と緩和ケア、人生会議のテーマで講演会実施。外来・入院患者さんの参加があった。

４．がん相談件数集計（令和 4 年 7～9 月）

友利委員より、資料 4 及び当日資料の各拠点の相談件数集計の統計表に基づき報告があった。

相談形式は全体として、対面での相談が多いが、琉大は対面・電話相談がほぼ同数であった。受診状況は外来が多く、那覇市立・北部地区医師会病院は入院患者からの相談

が多い傾向。相談時の治療状況は、各病院とも「治療中」が最も多く、次いで「緩和ケアのみ」であった。「治療前」からの介入が多かった県立八重山病院は、担当医からの紹介が約 6 割であった。この点についてなにか働きかけを行っているか、役割分担はどのようにしているかとの質問に対して、以下の回答があった。紹介状にがん・がん疑いの紹介名があれば事務担当者から受診日前に相談員に声掛けがあるため、担当医にがんセンター相談員に声掛けするよう合図している。また、医師から患者にシビアな話をするにあたって医師の心理的な負担軽減の意味もあり、がん相談員や緩和ケア Ns への声掛けが増えているのではないか。また、病棟ラウンドの際に病棟スタッフに積極的に声をかけ、気になる患者の情報が共有できる環境づくりに努めている。相談員が 1 人しかいないため、手一杯で診察同席できない場合は、会計待ちのときに声をかけるか、主治医に直接話を聞きに行くようにしている。がん疑いの場合は、すぐに介入せず、検査の流れや主治医からの声掛けを待つなど、介入のタイミングを慎重に見計らっているとの回答だった。医師に協力を求める際の工夫は、病院の規模が比較的コンパクトで医師とスタッフの距離が近いため、依頼しやすい環境であるとの回答だった。

相談室直通の固定電話の整備状況について質問があり各病院以下のように回答があった。那覇市立病院は直通電話に対応できる人員がいないため、今のところ直通回線は設けられていない。患者からは要望があるので、専用の携帯を導入すべきか検討している。中部病院は、代表番号につながりにくいという患者からの声が非常に多かったため、相談員が少ないながら直通の回線を設けた。八重山病院は、代表から相談員の内線へ連絡が来る。相談員に電話がつながりづらい場合、相談者が直接来院してくださることが多いため、直通回線があった方がいいという声は今のところ聞かれない。北部地区医師会は、直通の話は出ていない。時々つながり辛いという声もあるが、時間をずらすなどの工夫で対応できているため、新たに直通回線を引く計画はない。友愛医療センターは、相談室が始まったばかりなこともあって、外からの相談もさほど多くない。外来で対応することが多いため、まだ直通回線の検討はしていない。南部医療センターは、相談員直通の回線はなく連絡は連携室を経由、直通電話の開設は検討していない。

5.がん相談支援センターの広報

資料 5 に基づき、友利員よりがん相談支援センターの広報に関する報告があった。レキオへ 3 回依頼し、3 回掲載された。ほーむぷらざは掲載なし。引き続き広報依頼を行う。

6.地域統括相談支援センター活動報告

資料 6 に基づき西村委員より報告があった。7～9 月の相談件数としては、7 月 6 件、8 月 3 件、9 月 16 件で、患者本人からが 10 件、家族が 2 件だった。内容は、がんと告知されたことに対する不安の相談が多かった。がんピアサポートフォローアップ研修につい

て。令和 4 年 7 月 23 日 10 時～17 時、WEB でフォローアップ研修を行った。講義後の交流会では、「未来わたし」というテーマで、ピアサポート活動での楽しかったこと・苦労したこと・忘れられないことなどを共有した。研修後のアンケートに対しては、70％の方が「とてもよかった」と回答があった。開催 3 日前に急遽オンライン開催に変更となったが、資料の配送・オンライン開催の準備を行ったがスムースに行うことができ、濃い学びができた。一方、WEB に慣れていない受講者からは 1 日研修が長く感じたということもあった。各拠点病院のピアサロン派遣について。琉球大学病院ゆんたく会には 7 月・8 月・9 月の各月に 1 名を派遣した。那覇市立病院には、9 月に 1 名派遣した。中部病院に関しては中止や派遣の調整ができず参加はなかった。オンラインゆんたく会について。8 月、9 月、10 月に開催し、リピーターの参加に加え、新規参加者が 1 名あった。8 月に那覇市立病院で開催されたがん相談員研修に、ピアサポーター1 名が参加した。自身の感情に対する気づきが得られた。ピアサポーター質の向上を目指して、今後も研修参加予定。9 月に、本島と宮古にて、がんピアサポート展を開催した。来場者にアンケートを実施したところ、当事者となった場合 9 割の方が相談のため利用したいと回答した。がんピアキャラバン（相談会）について。宮古島でのがんセミナーには、ピアサポーター1 名を派遣した。琉大病院がんセンター長増田先生、宮古病院がん相談員金城さんの講演と質疑応答を実施した。県立図書館では、2 日間にわたって計 8 回の相談会を初開催した。サポーター 1 名派遣し、3 名の相談者で、当日予約の方、ホームページの広報を見て来館であった。図書館という場所柄、病院よりは相談のハードルが下がる印象であった。今後は、10 月毎週金曜に「がんピアサポート相談室」のラジオ配信と、第 46 回沖縄の産業まつり 2022 へ出展予定。

7.令和 4 年度 第 1 回がん相談員実務者研修会について

当日資料 1 に基づき、仲宗根部会長より報告があった。那覇市立病院主催で、令和 4 年度　第 1 回がん相談員実務者研修会を 8 月 20 日に実施。対面の予定だったが、感染対策のため急遽オンラインに変更し開催となった。申し込み 23 名、参加 17 名であった。

アンケートの結果としては、参加者は半数以上が社会福祉士、次いで看護師。業務経験年数は 10 年以上が多く、業務の大半はがん相談業務に従事している者が多かった。研修のチラシや、職能団体からの案内で知った方が多かった。研修の内容理解、時間、グループワークへの積極的な取り組みの達成度・満足度は高く、これからの業務に生かすことができるとのことだった。今後取り上げてほしいテーマとしては、AYA 世代への支援、事例検討法の知識や技術などがあった。研修会への意見としては、配信会場の Wi-fi 環境の強化・改善やワークの時間をもう少長くとってほしいこと、対面で開催できるのが待ち遠しいとの声があり、次年度の課題として活かしていきたい。研修を通して相談員自身の気持ちに気づき対処法がわかったとの感想もあり、研修の目標は概ね達成できたものと考える。

8.その他

①離島がんフォーラム in 宮古開催報告

金城委員より紙面報告。参加者は 15 名。渡航費助成について知らなかった方もいて、広報がまだまだ足りないと感じた。フォーラム参加した患者のご家族が後日、相談支援センターに来て不安な思いを話したり、当日参加できなかったが新聞で取り組みを知り支援を希望する電話相談があった。周知がまだ不足していることと、今後もこのようなフォーラムを継続する必要がある。

②現況報告について

増田委員より、現況報告について相談員が主体的に関わっているか質問があった。琉大の場合は全診療科に割り振るのだが、相談支援の部分は全てがんセンターで記入している。事務が関わる部分はかなり少ないが、多くの病院では総務課や医事課が回答を作成してしまい、現場の専門相談員がこの現況報告の存在自体知らないケースが中央の情報提供相談支援部会で報告されている。情報提供相談支援の部分は、現況報告の大きなページを占めているため、どのくらい現任者が書き込んでいるのか確認したいと説明があった。

那覇市立は、がん診療連携室が中心となって各診療部・関係部署に配布・回収・確認・データ入力を全て行っている。事務は介入していない。中部病院は、がん事務局が総括し、情報提供・相談支援の部分はがん相談員が回答している。琉大病院は、がんセンターから各部署に割り振りをし、それぞれの実務担当者が回答している。八重山病院は、事務から相談支援室師長に回答要請がきたら、相談員、緩和ケア看護師と共に集計・回答を行っている。北部地区医師会病院は緩和ケア委員が中心となり、各部署と確認しながら回答作成している。

義務要件の中で、「いいえ」と回答せざるを得ない場合どのように対応しているかとの質問に対して以下のような回答があった。琉大病院は、毎回 10 以上の「いいえ」があり、言い訳書を添付している。那覇市立は、部内でどう解釈するか議論をし、「はい」の回答を導き出すことが多い。中部病院は、部内で質問項目をどう解釈するか議論をし、現状に応じて対応策を追記するようにしている。八重山病院は、妊孕性や小児がんなど、島外の拠点病院と連携している部分を院内ではどのように対応を工夫しているかを追記している。北部地区医師会は調査項目の解釈を部内で協議しながら回答作成している

増田委員より、担当部署でしっかり議論して頂いていることがわかってよかったとのコメントがあった。

③ピアサポーター研修の要件緩和について

島袋委員より、膵臓がんの患者さんも、ピアサポーター養成講座が受講できるよう、「治

療終了後 2 年または 3 年経過していること」というような受講要件を緩和できないかとの提案について、増田委員よりコメントがあった。年数についての主目的は、体調的にも精神的に安定をしている方という事で、最終治療後から 3 年を目安としていた。2020 年に日本サイコオンコロジー学会が主体となって作成した研修カリキュラムでは年数の縛りが消えており、他県のピアサポーター養成講座でも年数の縛りが消えているものもあることから、皆さんに、今後の要件としてはどのようなものが良いのか伺いたいと質問がされた。上原委員より。意外とご本人は、自分は大丈夫だと思っていても研修を受けると安定していなかったな、と気づくこともあるよう。だと意見があった。また、ホルモン療法中の方でも受講は OK になったのかとの質問に対し、増田委員より、ホルモン療法中の方などは明確な取り決めがあったわけではなくて、弾力的に運用していたと回答があった。更に、薬物療法（抗がん剤・免疫チェックポイント阻害剤等含む）継続しているが、ピアサポーターとして活動したいとの要望については、体調によるところがあると思うので難しい面がある。ただ、ピアに参加したいと申し出られる方は体調・体力に自信があるので希望されていると思うので、治療中の方は要相談というふうなやり方を検討するのではどうか、との意見があった。

④増田委員より、今後の研究とがん計画について情報提供があった。
・拠点病院等における情報提供の適切な方法・項目の確立に資する研究班（若尾班）に分担研究者として参加することになった。広い意味での拠点病院として地域住民に対しての情報提供をどうしていくかということの雛型を作る研究班になる。沖縄の取り組みをベースに全国の拠点病院の情報提供のやり方を考えていくと言われているので、今後情報提供・相談支援部会でご意見を頂戴したい。

・第四次の国のがん計画が作り始まっている。各部会の評価や計画など、ロジックモデルを意識して頂ければと思う。また決定したことがあれば共有する。

【協議事項】

1．令和 4 年度 第 3 回がん相談員実務者研修会について

資料　に基づき、大久保委員より説明があった。がん医療と自殺対策の概要と、基本的なコミュニケーションスキル、連携を図るべきタイミング・職種・機関についての把握することを主目的としている。がん相談支援センターで解決するということではなく、ここでひとまずできることの確認・習得と、適切なタイミングで適切な場所につなげることができるよう、基礎的な部分をレクチャー頂く。11 月には周知予定。仲宗根部会長より、院内におけるがん患者の自殺対策のフローはどこで策定するのがいいのか、琉大で取り組みがあれば教えてほしいと質問があった。大久保委員より、琉大は主科から精神科へのコンサルトにて対応していると回答。増田委員より、

厚労省から 3 年ほど前に、自殺対策をがん相談支援センターで担ってほしいとワーキングに提案あったがこれを拒否し、自殺対策は精神科の領域なので最終的には精神科に紹介をして、精神科医師によって対応して頂くというのが大きな柱になること、対応した人が直ちに精神科へ紹介するというフローは必要と回答。琉大は、主に院内の入院患者が自殺をした場合・自殺企図がある場合・自殺の疑いがある場合についてのマニュアルはある。外来がん患者さんに対する自殺のための手引きにあたるものをリエゾンの精神科医師が作成中。もともと全ての拠点病院で自殺への対応が必要となったが、がん相談支援センターで請け負うのではなく、精神科の仕事であると答えていい。とはいえ実際は、相談支援の場で関わることはあると思うが、最終的に解決して責任を取ることになるのは精神科であることを理解して頂きたい。

２．相談支援センターへの立ち寄りルートについて

友利委員より、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（令和４年８月１日厚生労働省健康局長通知）が改訂され、『がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと』を目的とし、『外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問（必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む）することができる体制を整備する』ことが求められており、各病院の取り組み進捗等、意見交換を行いたいと提案があった。

増田委員より、患者体験調査では、利用した人からの満足度は高いものの認知度が3割ほどと低いままであったため、まずは相談支援センターの場所や役割を把握して頂くことが主目的である。告知後間もない時期から相談がある場合は多くはないとの予測であるので、事務方でも対応可能ではないかと考えている。相談がある場合は、そのまま専門相談員へ対応が引き継げられればよい。4 年後には義務になることが明文化されているため、スタッフの増員を今のうちから要請しておくことをお勧めする、コメントがあった。各病院の取り組みは以下報告があった。琉大病院は、立ち寄りのことを想定して事務員を一人増員した。事務員で受付・相談センターのチラシ等をお渡しして頂き、一定の情報をお伝えして頂いたうえで、相談希望があれば相談員で対応するという運用予定である。那覇市立病院は、医師よりがんサポートハンドブックを手渡していただき、がん相談支援センターに立ち寄るよう促して頂くこと、ACP の院内ワーキンググループにがん相談支援センターも参加し、ACP 後はがん相談支援センターに立ち寄ることを促していただくよう協力依頼をする予定。中部病院は前例対応が難しい、診断後に相談支援センターを通れるようにしたいがマンパワーの問題で、全例対応が難しそうではある。がん化学療法支援センターを利用する際、がん相談支援センターのリーフレットを渡していただくこと、外来の診察室でも医師からがんサポートハンドブックとセンターのリーフレットを渡すようにして頂い

ている。今後、外来の看護師からも、がん相談支援センターの利用促して頂くよう依頼予定。八重山病院は、中部病院同様、相談員が 1 人なのでマンパワーの心配がある。システム、医師、外来看護師の協力が必要。外来や病棟に誘導してくれるスタッフがいないといけないので、周知していく必要がある。北部地区医師会病院は、緩和ケア病棟の専従看護師が中心となり、がんサポートハンドブックを手渡していただき、相談支援センターの利用を促していただいている。今後、対応を考えていきたい。

３．その他

・パンキャンジャパン島袋委員より、紙面にてセミナーの開催案内があった。

【テーマ】「膵がんの早期発見を目指して」

【日時】2022 年 10 月 31 日（日）　13：00～16：00

【会場】You Tube　LIVE　　（事前申込制）

・令和 4 年度 第 2 回がん相談員実務者研修会について、中部病院玉城委員より開催案内があった。

【テーマ】「終活ってどうするの？誰のため？何のため？
～終活から ACP を考える あなたならどうする～」

【講師】金城　隆展　先生（琉球大学病院 地域・国際医療部　臨床倫理士）

【日時】2022 年 10 月 31 日（月）　18：00～20：00

【会場】ZOOM ミーティング　（事前申込制）

・情報提供・相談支援部会、次回開催は 2 月 9 日(木)、14 時から開催。